

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 9 月 18 日現在

機関番号：25403

研究種目：基盤研究(B) (海外学術調査)

研究期間：2014～2017

課題番号：26300017

研究課題名(和文)ヒマラヤをめぐり展開された密教工芸の造形と表現の研究

研究課題名(英文) Study of the Tantric Buddhism Art and Craft in the South side of the Himalayan curtulal circle

研究代表者

服部 等作 (Hattori, Tosaku)

広島市立大学・芸術学部・名誉教授

研究者番号：50218509

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 10,300,000円

研究成果の概要(和文)：成果概要：信仰寺院 - 巡礼路に沿い北部のチベットへ文化圏の発展する様相を明らかにした。研究は北西インドのインド/パキスタンの国境沿いにインダス - ジェラム、スワート川一帯が同時に中央アジアとインド、さらに東南アジアを巡礼路で結びつけ、美術様式でガンダーラ - マツウーラ、インド中央部のグプタ - 後期グプタ美術へと継承する美術の内容を検証した。本研究目的がヒマラヤ山脈周縁を囲む文化圏と巡礼路の仏教と密教および土着の信仰のなかの美術/工芸と芸能に焦点に沿う成果となった。さらにヒマラヤ周縁の信仰と美術は、仏教、密教、ヒンズー信仰をもとに西アジアと各地の伝統と一体化したことが遺跡や遺物の調査で判明した。

研究成果の概要(英文)： Summary of the study and surveys shows the existence the pilgrims routes as Himalayan cultural encircle, and shows the importance of the pilgrims routes in North-West India and Pakistan where along the Indus Jhelum and Swat river. The pilgrim routes where connected from Central Asia to the South-East Asia via North India. Finally these routes had roles as the bridge to developing arts styles by the Gandhara and Mathura in the North India, Gupta and Post Gupta style to North India and Tibet.

In addition, the relics appeared in pilgrims routes had other evidence as bridge of the monasteries connect to the encircle of Himalayan culture to developing Buddhism, Tantric Buddhism, Hindu, West Asia influences and traditional local religious.

研究分野：工芸美術

キーワード：仏教美術 工芸美術 ヒマラヤ 密教 シルクロード 造形表現 チベット 北西インド

1. 研究開始当初の背景

ヒマラヤ山脈をかこむ周縁各地は、地勢的にユーラシア大陸の東西南北の中央部に位置する。このため古くから山岳、精霊、呪術的な土着の信仰のもとイスラム、ヒンドゥ教、仏教(密教)が栄え神秘的なイメージがある。しかしこのヒマラヤ山脈とその周縁各地一帯にも情報化、グローバル化の波が及び、文化的な衝突が生じる地域へと変化している。

歴史的にヒマラヤの周縁一帯が果たした東西の文化交流における役割は、南のインド大陸と北の内陸部 - 中央アジア、チベット、中国西域と結びつける機能を担ってきた。なかでも紀元前から1千年紀にかけて仏教の国際化は、古代のインドと中央アジアを巡礼・交易路で結びヒマラヤの四方の各地から汎アジアにおよぶ一大文化圏を形成した。ヒマラヤ一帯は、歴史・文化的に孤立地帯であると同時に流・出入を繰り返す回廊部に位置するため、今もなお地域紛争として、ヒンズー教徒とイスラム教徒間・インドのジャムカシミール州とパキスタン・パキスタン・カイバルパクトウン州の紛争、インドとバングラディシュ、ならびにミャンマーの仏教とバングラディシュのイスラム教徒間の宗教、民族間紛争が続いている。

こうした状況をかかえたヒマラヤ一帯は、地域一帯の民族や文化的な混乱に歯止めなきまま歴史・文化、地域の伝統的な文化的な変容、あるいは喪失の危機が加速している。

本研究は、古代より東西と南北世界とその文明の十字路を担った歴史を背景にして、ヒマラヤをとりまく各地の信仰とその造形・表現について基層文化を調査し、今日的な状況を見いだす必要がある。

2. 研究の目的

研究目的は、ヒマラヤ一帯に今も信仰が息づく世界的に独自性ある仏教-密教の文化が温存されてきた。この地域一帯の信仰とその

造形・表現を対象に、工芸の造形(密教荘嚴具)の静態性とその表現(法舞, 祭祀儀礼)の動態性を注目し、信仰を实践する場を形成する点(信仰拠点の寺院・聖地)-線(巡礼路・経路)-面(文化圏)の様相の現地調査にある。

この地の文化・伝統をなすインドの精霊、呪術的、山岳部の信仰に根付き発展したヒンズーや仏教を含め様々な信仰を荘嚴する文化的な内容について「ヒマラヤをめぐり展開された工芸の造形と表現」を主題にした本研究によって当地一帯の文化的な基層の解明をめざす。

3. 研究の方法

ヒマラヤをとりまく基層の文化的様相を現地調査するため採用した方法は、現地調査を以下の視点からすすめる点にある。その調査の視点は、仏教(密教)信仰を实践の場を形成する点(信仰拠点の寺院・聖地)-線(巡礼路)-面(文化圏)を調査対象の基本視座においた。そして各調査地において(1)密教(仏教)工芸の造形(荘嚴具)の静態性とその表現(法舞, 祭祀儀礼)の動態性を、(2)現地調査による資料の収集、および立体3次元画像による資料記録と収集により(3)ヒマラヤ一帯をとりまく信仰の基層文化を段階的に解明を目指す方法をとっている。

4. 研究成果

本研究による横断的かつ縦断的現地調査は、インドとパキスタン、インド - バングラディシュといった二ヶ国間において両国の研究者が研究交流できない地域に対し相互の地域に調査を実施できた。すなわち1)インド・ジャムカシミール州/ヒマルチュリプラディシュ州およびパキスタン・カイバルパクトウン州、2)インド・チャッテシガル州、オリッサ州 - バングラディシュ、3)チベット自治区 - 青海省、モンゴル・ウランバートルのチベット文化圏の調査が実現した。

本研究による広域的現地調査の成果は、ヒマラヤをめぐり展開された造形と表現の内容についてヒマラヤをとりまく信仰の基層文化の内容が現地調査から確認でき、『インドからヒマラヤを越え中国に伝わった仏像』など発表論文などに記した研究成果をあげた。

5. 主な発表論文等 (研究代表者は下線)

〔雑誌論文〕(計3件)

服部等作(2017):『インドからヒマラヤを越え中国に伝わった仏像 - ヒマラヤをめぐり展開された造形と表現の研究』, 広島市立大学・芸術学紀要 20号

服部等作(2014):『アムド・レブコン地方のル口祭と信仰の表現-神話のシルクロード』, pp.55-63/478, 井本英一、篠田知和基(編)、楽瑯書院

服部等作(2014):『立像と横臥像からなる饗宴と化粧皿の図像-異界と常世』, pp.513-527, 篠田知和基, 井本英一(編)、楽瑯書院,

〔学会発表〕(計8件)

服部等作(2016年8月1日):『ディオニュソスの系譜 - 芸能とエクスタシーの神々』筑波大学比較宗

服部等作(2014年8/29-30):『チベット・アムドにおけるル口祭の信仰』, 文明の発生の神話・農耕、金属、繊維、繊維文化と文明の祭り、比較神話学シンポジウム、GRMC比較神話学研究組織 pp.193-197, 中央大学多摩キャンパス、比較神話研究会、

中野照男(2018):『西域壁画の彩色に使われた顔料と有機色料 - その概観と判別法』, 東洋文庫内陸アジア出土古文研研究会、東洋文庫

奥山直司(2016):『『初会金剛頂経』の印度撰述注釈書類について』陝西師範大学宗教研究中心主編『第三届中国密教国際学術検討会 総合密教論文集』剣川、2016年、pp.1-12。

奥山直司(2016):『文殊菩薩と金剛陪囉嚩尊』

『文殊信仰暨能海上師誕辰 130周年国際学術論場論文集』五台山、2016年、pp.56-64

森雅秀(2017):『女性の姿をした仏たち:その信仰と美術』平成29年度 西田幾多郎哲学講座、西田幾多郎記念哲学館・石川県

柴田隆史(2016):『フィールドワークにおける3D映像の活用:人間工学的視点と3D映像の機能性に注目した取り組み - 異分野から見た文化人類学・コラボレーションの可能性と問題点』, 日本文化人類学会第50回研究大会発表要旨集, p.82, 2016.5.28-29, 場所:南山大学・愛知県

柴田隆史、他(2015):『3次元映像による記録と表現 - ヒマラヤをめぐり展開された密教工芸の造形と表現の研究』, 海外学術調査フォーラム・東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所

〔図書〕(計6件)

服部等作(2018):『北西インドからヒマラヤを越えた青銅仏』, pp.167-199、アジア仏教美術論集・チベット II、宮治昭・肥田路美・板倉聖哲(監修)、中央公論美術出版、

奥山直司(2017):『チベットの仏伝と仏伝図』小峯和明編『東アジアの仏伝文学』勉誠出版、2017年、pp.133-156。(総840p.)

奥山直司(2016):『注釈者と注釈書 ブッダグフヤ、アーナンダガルバ、シャークヤミトラ』高橋尚夫・野口圭也・大塚伸夫編『空海とインド中期密教』春秋社、pp.45-57/総312p.

森雅秀(編著)(2018):『アジア仏教美術論集 中央アジア II チベット』中央公論美術出版、567p.

森雅秀(2018):『チャトラパティ・シヴァジ博物館のヒマラヤ美術』Asian Iconographic Resources Monograph Series, Vol. 20、90pp.

森雅秀(2017):『仏教の女神たち』春秋社、272

〔産業財産権〕

出願状況(計 - 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：
取得状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

西藏自治区-青海省を結ぶ藏族の工芸美術と
芸能の文化：その資料と保存に関する研究
[http://harp.lib.hiroshima-u.ac.jp/hiros
hima-cu/metadata/1010](http://harp.lib.hiroshima-u.ac.jp/hiros
hima-cu/metadata/1010)

チベット仏画制作センターにおける伝統技
材用法と継承に関する研究
[http://harp.lib.hiroshima-u.ac.jp/hiros
hima-cu/metadata/1015](http://harp.lib.hiroshima-u.ac.jp/hiros
hima-cu/metadata/1015)

東チベットからラサにいたる間の祭りと文
化・吐蕃古道沿いアムドの六月会
[http://harp.lib.hiroshima-u.ac.jp/hiros
hima-cu/metadata/879](http://harp.lib.hiroshima-u.ac.jp/hiros
hima-cu/metadata/879)

ヒマラヤ文化圏の芸術と文化・そのアーカイ
ブ化に関する研究
[http://harp.lib.hiroshima-u.ac.jp/hiros
hima-cu/metadata/1705](http://harp.lib.hiroshima-u.ac.jp/hiros
hima-cu/metadata/1705)

「チベットの芸術と文化・その現在と未来」
国際シンポジウム ITS2002 論文・資料集
[http://harp.lib.hiroshima-u.ac.jp/hiros
hima-cu/metadata/4068](http://harp.lib.hiroshima-u.ac.jp/hiros
hima-cu/metadata/4068)

中国雲南省・四川省 p.藏族における工芸と芸
能の記録保存と文化伝承をめぐる研究

[http://harp.lib.hiroshima-u.ac.jp/hiros
hima-cu/metadata/3911](http://harp.lib.hiroshima-u.ac.jp/hiros
hima-cu/metadata/3911)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

服部等作(Hattori Tosaku)
(広島市立大学・芸術学部・名誉教授)
(研究者番号：50218509)

研究分担者

中野 照男(Nakano Teruo)
(成城大学・文芸学部・特任教授)
(20124191)

奥山 直司(Okuyama Naoji)
(高野山大学・文学部・教授)(50177193)

森 雅秀(Mori Masahide)
(金沢大学・人間科学系・教授)(90230078)

柴田 隆史(Shibata Takashi)
(東京福祉大学・教育学部・教授)
(90367136)

(2) 研究協力者

更嘎旺秀(Gengar・中国・青海民族学院・教授)
羅文華(Luo Wenhua・中国・故宮博物院宮廷
部・副学芸員)

劉永增(Liu Yonzeng・中国・敦煌研究院考古
研究所・研究員)

サヘイ.B.K. (Sahay B.K.・インド・国立ニ
ューデリー博物館・学芸副部長)

アシュラフ・カーン(Mohamed Asraf Khan・
パキスタン・クェイド・アザム大学・教授)

ニドォラ・サヘライ(Nidauiha Sehrai・
パキスタン・ペシャワール大学博物館・教
授)

M.D. ウイリス (Michael D. Willis・英国・
大英博物館・東洋部・副部長)

コーニッシュ篋子(Setsuko K. Cornish・英
国・ロンドン大学・SOAS 学院・元講師)

篠田 知和基 (Shinoda Chiwaki・広島市立大
学・国際学部・元教授)

菅澤茂(Sugasawa Shigeru・工学院大学・建
築工学研究科・研究員)